

第 20 回子育て支援分科会開催報告

21.1.28.

分科会主査（代行）：八木英樹

開催日時	1月26日（火）9:00～10:15（Zoom）
参加者 （敬称略）	東京大学・高齢社会総合研究機構(IOG)：2名、 地域包括支援センター：1名 町内会：4名
配布資料	子供向け企画に関するアンケート分析結果（荻野先生作成）

1. ボトリウム工作教室の準備状況

- 1) 参加者応募状況：子供会のLINE網でご案内を配信、直ぐに8名枠が埋まった。参加費（一人500円）は受領済。差額は東京大学 IOG、講師謝礼は町内会から支弁予定。
- 2) Zoom で1月30日（土）午前10時から開催。講師：田畑先生、ホスト役：高瀬先生。
- 3) 参加者にアンケートを配信し、記入依頼。文案は高瀬先生が分科会メンバーに配信、推敲する。

2. 町内の齋藤真子さんのミニリース工作指導

12月初め かまくらっ子深沢（深沢小学校区）小学生50名を前半、後半に分けて対面で実施
12月13日（日） 当町内の子供さん8名にZoomと対面で実施
2月1日（月） かまくらっ子山崎（山崎小学校区）で開催。齋藤さんがビデオで作り方を指導、それをういて、かまくらっ子指導員が対面指導
結果を次回ご報告いただく。

3. 「子供向け企画に関するアンケート」回答の内容審議

- 1) 1月19日時点で19名の保護者から回答があり、荻野先生からその分析をご報告いただいた。
- 2) 参加希望が多い「プログラミング入門講座」「簡単な英会話講座」、「科学体験教室」を中心に今後の取組みについて議論した。
- 3) 小学生は4年生から塾に通うケースが増えるので、主たる対象を小学低学年としたら如何か。
- 4) 小学校における英会話教育は強化される方向にあり、その対応が求められたのではないか。
- 5) プログラミング、英会話ともに、町内にはそのスキルの持ち主はいるが、子供相手に興味を持たせながら教えるノウハウはない。こうした点は先生方にご指導いただきたい。
- 6) Zoomで行う前提で考えると、科学体験教室は「安全」、「自宅に宅配できる」、「子供が興味を持つ」ことが必要。どのような内容が適切か、IOGでその分野の有識者に知見を求める。

4. 未就学児のママさんのオープンハウス

- ・コロナ禍第3波対応で、町内会館が再度、2月末まで団体利用禁止となったため、1月22日と2月26日のオープンハウスは中止。
- ・これまでの参加者には田中典子さんからLINEで中止を連絡していただいた。1月21日、会館の玄関に貼り紙で中止をお知らせ。

5. 次回分科会 2月16日（火）9am～（Zoom）

議題：ボトリウム作り教室の反省と今後の教室に対する教訓

以上